

中山間地域における資源管理とソーシャル・キャピタルの存在状況 — 島根県雲南市を事例に —

伊藤勝久（島根大）

はじめに

中山間地域の住民や社会の特徴として、地縁・コミュニティー・共同性がある程度存在し地域的結束の背景となり、地域の伝統が現在に受け継がれ住民の考えや行動を規定している。しかし過疎化や少子・高齢化により産業の全般的な衰退がみられ、生活条件の悪化や農地の耕作放棄や森林放置など資源管理の希薄化が問題となっている。本研究では、地域に存在するソーシャル・キャピタル（以下、SC と略記）に着目し、その豊かさの程度と資源管理の関係を検討し、人口定住・産業振興対策とともに SC の充実策により地域振興・資源管理に資することを目的とする。なお SC とは、社会における人間関係に関わる概念で、「社会的繋がりとそこから生まれる規範・信頼関係」⁽¹⁾あるいは「共通の目的に向けて効果的に協調行動へと導く社会組織の特徴」⁽²⁾とされている。

調査方法

本研究の対象地域は島根県雲南市の 12 集落で、各自治会長などに対して戦後の地域の変遷・現況などのヒアリング（2006 年 9 月～11 月）とともに、集落構成員（15 歳以上）を対象に SC に関連する意識調査を実施した（2006 年 11～12 月、配布 1630、回収 785、回収率 48%）。その上で調査結果と農林業センサス集落カードのデータとを比較し、地域活動・資源管理と SC の存在状況との関連性を求めた。

結果と考察

社会の維持や社会的活動の活性度を人口構成や規模の面以外から規定するのが SC であり、これは人口構成や人口規模と必ずしも連動するものではなく、地域内部の濃密な社会的つながりや信頼感の相互認識が地域独特の規範や価値観として地域を特徴づけている。また SC は自己確認、信頼感、平等性などが大きな要因になっており、年齢階層ごと、集落ごとに SC の発現形態も異なることが分かった。集落ごとに SC の存在状況と集落活動程度、農地、森林、集落環境など地域資源の管理との関連を検討した。その結果、個人の農地森林の管理程度とは関連性がなく、資源管理には経済要因が優先し、集落資源に対するかつてのような総有意識は失われていると考えられる。しかし集落環境整備、集落営農、共有林整備などの共同作業や地域行事への参加と SC の程度には一定の関連性がみられた。

引用文献

- (1) パットナム, 『哲学する民主主義—伝統と改革の市民的構造』河田訳, NTT 出版, 2001
- (2) 内閣府国民生活局, 『ソーシャル・キャピタル—豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』, 日本総合研究所, 平成 14 年度内閣府委託調査報告書, p1-14. 2002

(連絡先: 伊藤勝久 itokatsu@life.shimane-u.ac.jp)